

カーボンハーフスタイル推進資料 指導資料

カーボンハーフスタイル推進資料は、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという世界共通のゴールに向けて、自然環境や地域、地球規模の諸課題等の環境保全に関する具体的な内容を示し、児童・生徒に、環境に対する豊かな感受性や探究心、環境に関する思考力や判断力、環境に働き掛ける実践力など、持続可能な社会を構築していくための資質・能力の育成を図ることを目的に作成した教材です。

本指導資料では、カーボンハーフスタイル推進資料の授業での活用例を紹介します。

カーボンハーフスタイル推進資料の活用例 未来の地球のために、自分でできることを考え、実践しよう ～カーボンハーフ～ 2030年カーボンハーフに向けた取り組み ～今、わたしにできること～

表題



ねらい

- ・世界の温室効果ガス排出量の推移を知る。
- ・地球温暖化防止対策は国際的な課題であることを理解する。
- ・地球温暖化が異常気象や自然災害を引き起こす原因となっており、さらなる対策が求められていることを知る。
- ・日本の二酸化炭素排出量の部門別割合を知り、必要な対策を考える。
- ・CO₂排出削減に向けて、社会全体で様々な取り組みが行われていることを知り、それらに参画しようとする態度を育む。

本教材で扱う 主な内容

世界の温室効果ガス排出量、気象危機の深刻化、日本の温室効果ガス排出量の現状、カーボンハーフに向けた社会全体の取り組み

主な活動内容

主な活動内容	指導の要点	◆推進資料との関連 ■関連リンク
○ 推進資料①を見て、世界の温室効果ガス排出量の推移を知り、地球温暖化対策が全世界的な課題であることを理解する。	○ 現在も世界の温室効果ガス排出量は増え続けており、このまま対策をしなければ地球温暖化がさらに進行することを説明する。	◆ 掲示用教材①
○ 推進資料②を見て、地球温暖化による気候変動が自然災害などを引き起こす恐れがあることを知る。	○ 地球温暖化が原因と考えられる異常気象や自然災害などが深刻化していることを説明する。 ○ 気候変動（気候危機）に対して、国内外どのような対策や国際的な協力体制があるのか調べて、話し合うように促す。	◆ 掲示用教材② ワークシート① ■ 環境省 脱炭素ポータル
○ 推進資料③を見て、日本の二酸化炭素排出量の現状を知る。	○ 日本の二酸化炭素排出量の現状を説明する。	◆ 掲示用教材③ ワークシート②
○ 推進資料④⑤を見て、カーボンハーフに向けてどのような取り組みを行えばよいか考える。	○ 温室効果ガスの排出量の削減をさらに進めるために必要な対策について、考えるように施す。 ○ 東京都のカーボンハーフに向けた取り組みについて、事例を示して説明する。	◆ 掲示用教材④⑤
○ 推進資料⑥を見て、CO ₂ 排出実質ゼロを実現した社会がどのようなになっているか考え、話し合う。	○ 東京都では、2030年カーボンハーフの先を見据えた取り組みが進められていることを説明する。 ○ カーボンハーフ及びカーボンニュートラル実現のために、ライフスタイルや社会の仕組みをどのように変えていけばよいか考えるよう声掛けをする。	◆ 掲示用教材⑥ ワークシート③ ■ 東京都環境局 気候危機行動ムーブメント「TIME TO ACT」

